資 料 1

第２１回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード
議事要旨

１　日　時：平成２８年１２月１６日（金）１４：００～１５：３０

２　場　所：総務省１０階総務省第１会議室
　　千代田区霞が関２−１−２　中央合同庁舎第２号館

３　出席者：（委員）
　　◎ 亀井　昭宏（早稲田大学名誉教授）
　　〇 黒沢　文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
　　兼川　真紀（弁護士）
　　斎藤　靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
　　榊　　誠（公益財団法人あしたの日本を創る協会理事長）
　　髙山　正也（独立行政法人国立公文書館フェロー）
　　［敬称略、◎は座長、〇は座長代理］
　（総務省）
　　佐伯　修司　官房審議官
　　稲垣　好展　管理室長
　　細田　恵三　企画官

４　議事次第
（１） 企画競争提案の審査について
（２） プレゼンテーション及びヒアリング

５　議事要旨
（１） 企画競争提案の審査についての説明
　平成２９年度の平和祈念展示資料館運営の企画提案にかかる審査方法及びプレゼンテーション等の実施方法について、事務局より説明が行われた。
（２） プレゼンテーション及びヒアリングの実施
　企画提案書について応募者より説明後、質疑応答が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

〇．　館名の英語表記について、パンフレットだけでなく、チラシやポスターにも入れるようにしたらよいのではないか。

○　実物資料はきちんと保存し残していくことが大前提である。その上で、優先順位を決めてレプリカを作成していくことが必要となるだろう。費用の問題もあるので、計画的に作成していただきたい。

○　レプリカが作成されると、小学生などが実際に触ったり、着たりすることができる。体験型の学習として効果があるだろう。

○　デジタルアーカイブによる発信は、多くの人に見てもらえるという点では有効であるが、実際に実物資料を見てもらうということも重要である。地方展示会は今後も行っていただきたい。

○　デジタルアーカイブの構築にあたっては、有識者の意見を聞きながら、検討していただきたい。

○　資料館のような施設がない地方の小学生や中学生に来館してもらうために、修学旅行など団体の誘致をさらに働きかけていただきたい。

○　限られた予算の中で、様々な活動を行うことは大変だろうが、事業計画をしっかり立てて進めていただきたい。